

バイオフィードバックスキャン(Biofeedback scanning)

バイオフィードバックスキャンは、スプーキーパルス(**Spooky Pulse**)の指サック電極を小指の先端に付けて赤外線センサーで血流に生じる異常を検知して行われます。

ジェネレータから、大多数の細菌や寄生虫の周波数レンジの周波数を発生させ、血管の反応(交感神経性血管拡張・収縮)を検知します。特定の周波数が特定の細菌にヒットして殺菌が生じるとその影響が血液に反映されます。その影響を赤外線センサーで検知して、特定細菌の周波数を取得します。

ヒット数の多い周波数は、その特定細菌が体内に多いことを意味しています。それで、その特定の周波数を殺菌に活用するためにデータベースに追加し保存します。ベスト**10-20**くらいを得るように設定します。

バイオフィードバックスキャンの所要時間は、約**1時間15分**くらいです。その間はベッドに寝てリラックスします。プログラムの終了を音で知らせるように、事前にアドバンスメニュー(**Advanced menu**)で**Enable Sound**にチェックを入れておきます。あとは、バイオスキャンの終了を知らせる音が鳴るまで、**75分**ほどベッドで暖かくして寝ていてください。

リモートモードでスキャンする方法
(リモートモードのほうがコンタクトモードより実際的と思います。)

スプーキー・リモートの**MN**(マグネットノース、黒丸)と**BN**(バイオノース、白丸)を用いる方法。(リモートを**1**個用いる方法もあります。その方法は後日説明します。)

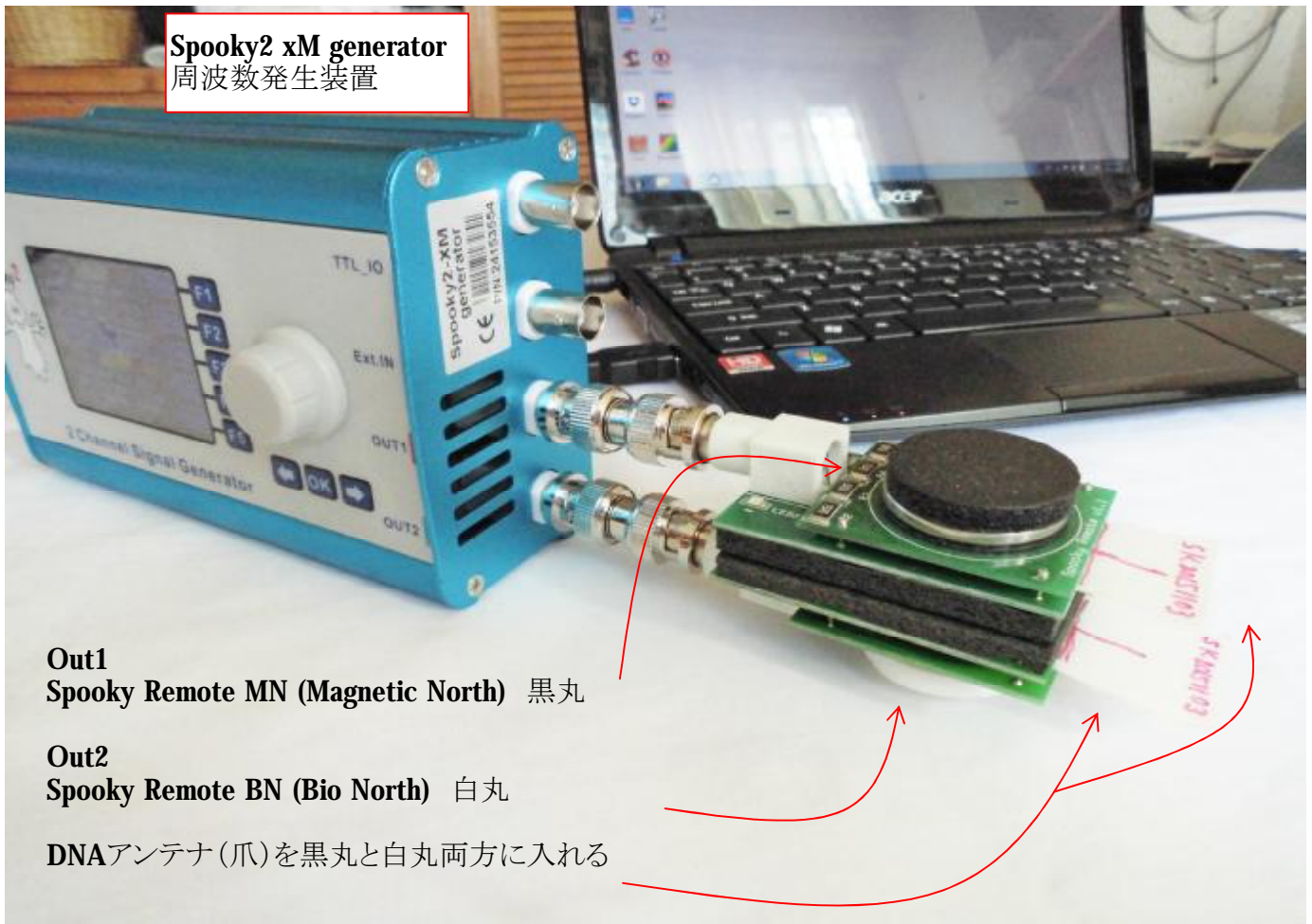
黒丸(**MN**)をジェネレータの**OUT1**、白丸(**BN**)を**OUT2**につなぎ、**OUT1**のオフセットを**100%**、**OUT2**のオフセットを**-100%**とします。

黒丸(**MN**)と白丸(**BN**)のリモートには自分の爪の**DNA**サンプルをセットします。

次にプログラムオプション(**Program Option**)と、バイオフィードバックスキャン(**Biofeedback Scan**)の設定をして、スプーキーパルスの指サック電極を小指の指先にセットしてバイオスキャンを開始します。



Spooky2 xM generator
周波数発生装置



Out1
Spooky Remote MN (Magnetic North) 黒丸

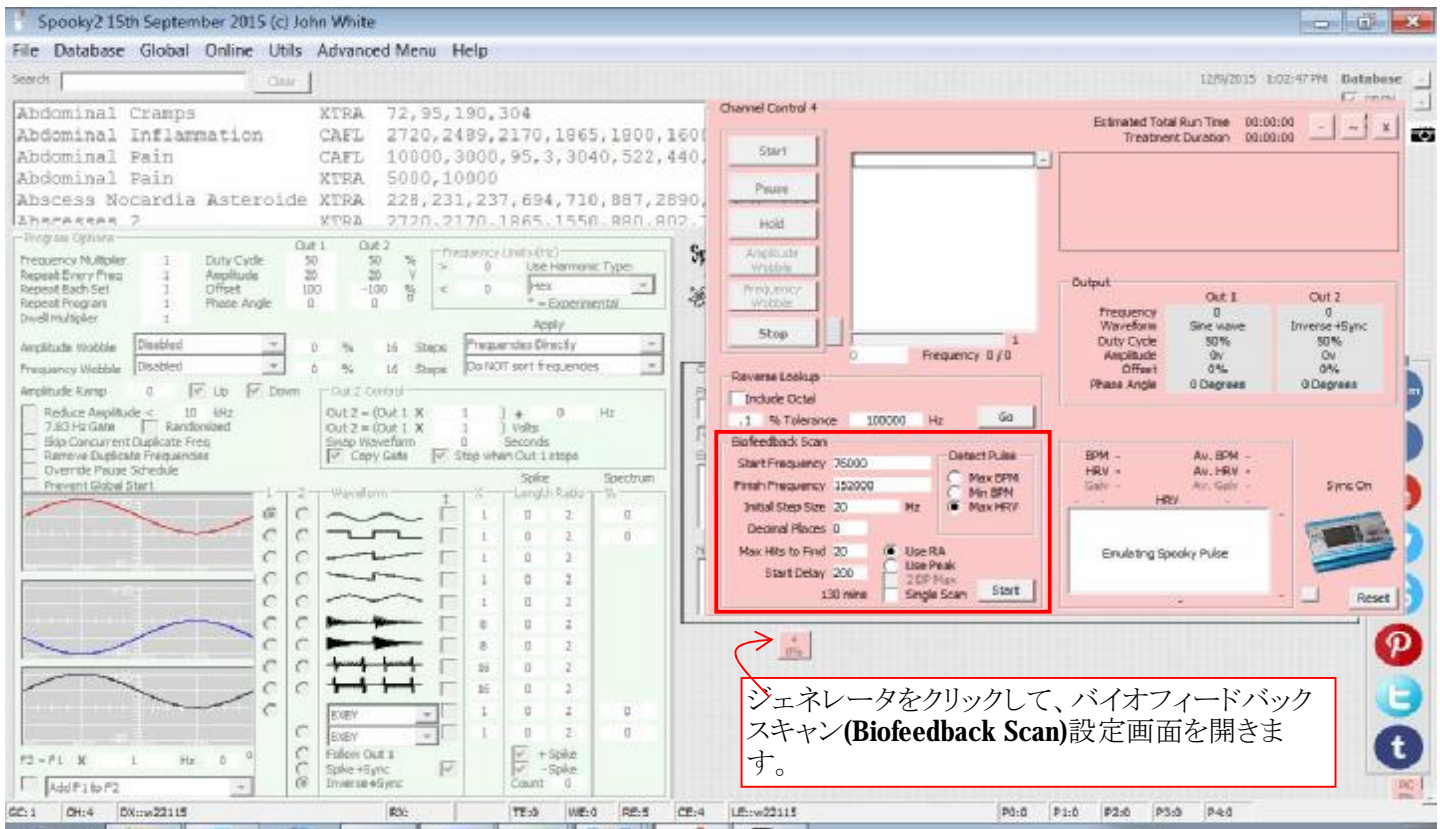
Out2
Spooky Remote BN (Bio North) 白丸

DNAアンテナ(爪)を黒丸と白丸両方に入れる

プログラムオプション(Program Option)の設定

Repeat Program(プログラムの繰り返し)を1にする。
 Out1のOffsetを100%
 Out2のOffsetを-100%にする。
 Amplitude Rampを0にする。
 波形は、
 F1はサイン波を選び、(方形波でも良い)
 F2は、F1のInverse + Sync(逆同期)を選ぶ。
 他の項目はデフォルトのまま使います。

ここは、Octal or Hexどちらでも可。
 上記で設定したバイオスキャンのプログラムを sk-bioscanとタイプし、「+」を押して保存する。「-」は、作ったプログラムをリストからクリアーするとき用いる。



ジェネレータをクリックして、バイオフィードバックスキャン(Biofeedback Scan)設定画面を開きます。

バイオフィードバックスキャン(Biofeedback Scan)の設定

Channel Control 4

Start
Pause
Hold
Amplitude Wobble
Frequency Wobble
Stop

Reverse Lookup
 Include Octal
.1 % Tolerance 100000 Hz Go

Biofeedback Scan

Start Frequency 76000
Finish Frequency 152000
Initial Step Size 20 Hz
Decimal Places 0
Max Hits to Find 20
Start Delay 200
63 mins

Detect Pulse
 Max BPM
 Min BPM
 Max HRV

Use RA
 Use Peak
 2 DP Max
 Single Scan

Start

Start Frequency (開始周波数) 76000Hz
Finish Frequency (終了周波数) 152000Hz
Initial Step Size (周波数ステップ間隔) 20Hz
Decimal Places (少数点以下) 0
Max Hits Find (ヒット周波数の数) 20
Start Delay (開始遅延) 200心拍数

Detect Pulseは、Max HRVを選択する。

Use RAを選択する。

Single Scan (1回スキャン)にチェックを入れる。

所要時間**63min**と表示されていますが、実際は**75分**くらいかかります。

設定を終え**スタートボタン**を押してスキャンを開始します。

Dr. ライフ(Dr. Rife) と **Dr. クラーク(Dr. Clark)**は、大半の寄生虫や細菌の致死周波数域(**Mortal Oscillatory Rates, MORs**)は**76,000Hz**～**880,000Hz**帯であることを発見しました。

これはとても広域で、そのスキャンには時間がかかりますが、高調波を活用してスキャンレンジを落としてフルレンジスキャンが可能です。

オクタルサブハーモニクス(**Octal sub-harmonics**)を使うと**880,000Hz**を**1/8**の**110,000Hz**まで落とせます。

スキャンレンジは、**76,000Hz**から**152,000Hz**と設定すると、**152,000Hz**より高い周波数はオクタルサブハーモニクス(**Octal sub-harmonics**)によりカバーされます。それで所要時間は**76,000Hz**から**152,000Hz**までの比較的短い時間で全**MOR**域をスキャンできます。

Initial Step Size (周波数ステップ間隔)について、**MOR** (致死周波数域)の許容範囲は±**0.025%**です。任意の周波数の±**0.025%**の範囲で共振する細菌を殺菌できます。**76,000Hz**の**0.025%**は**19Hz**です。それで周波数間のステップ間隔を**20Hz**にすると**MOR**全域の周波数をカバーすることになります。

Decimal Placesについて、少数点以下**0**で**OK**です。高周波において正確さは問題となりません。**MOR**は±**0.025%**の余裕がありますのでピンポイントの必要はありません。

Max Hits to Findについて、**20**で**OK**です。**20**個の最も肝心の周波数を取得します。その**20**個の**MOR**周波数の寄生虫、細菌が問題の原因とみなせます。

Start Delay (開始遅延)について、スタートボタンを押した後、ここで設定した心拍数だけ遅れて実際のスキャンが始まります。**200**心拍が長すぎると思えば数を減らしてください。スタート遅延する理由は、ベッドに横たわりリラックスするための時間をとるためです。バイオフィードバックスキャンはリラックスした状態で行う必要があります。

Use RAについて、**RA**は、**Running Average (pulse rate)**のことで、心拍の平均をとります。**MOR**フルスキャンの場合に選択します。

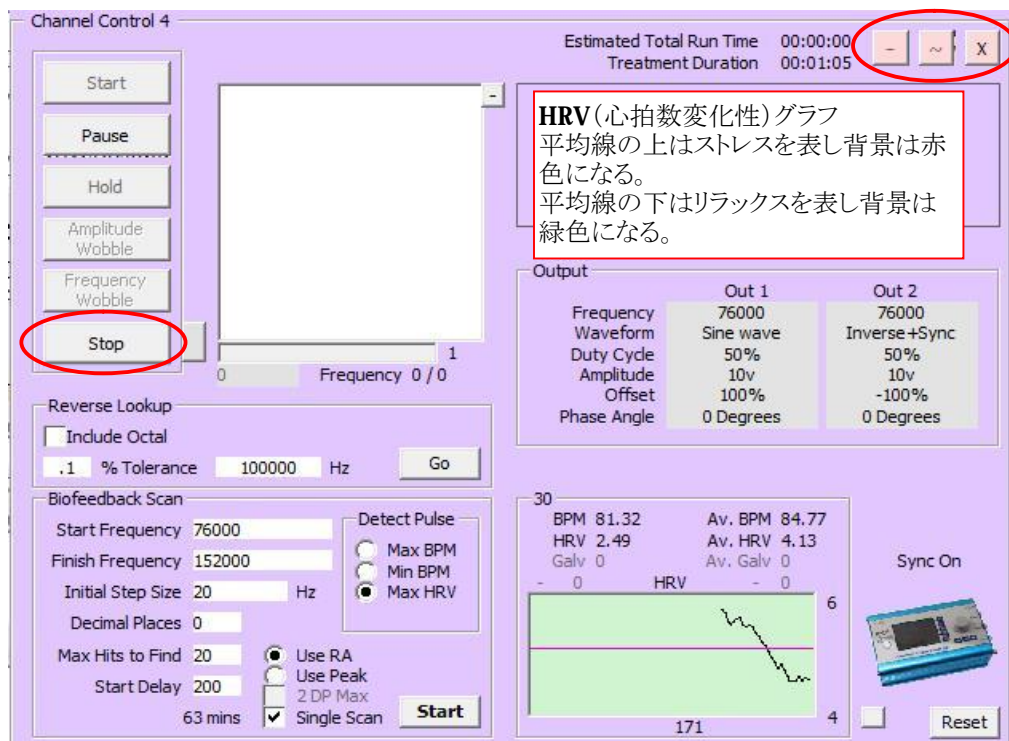
Single Scan (1回スキャン)
スキャンは**1**回で終わります。所要時間は約**75**分です。

Max HRVについて
HRVは、**Heart Rate Variability**のことで、心拍数変化性のことです。スキャンの間の心拍数の変化をみます。**HRV**の絶対値の増加は、一時的なストレスのサインです。スキャンの際のエラーを減らすため、あらかじめ**Advanced menu**の**Double HRV(Heart Rate Variability) tolerance** (心拍数変化許容)にチェックを入れておくと良い。

バイオスキャンが開始されると画面の色がパープルに変化します。

通常は、75分間くらいのスキャンが完了するまで途中でスキャンを中止することはありませんが、スキャンを中止したい場合は、赤丸で囲んだ**Stop** ボタンを押します。

一旦スキャンを中止したり、スキャン途中でエラーが発生したり、指サック電極が外れたりした場合は、スキャンを最初からやり直す必要があります。



「×」は、プログラム起動中にチャンネル画面を閉じます。プログラムはストップせずに継続します。単にチャンネル画面を閉じるだけです。

「～」と「-」は、プログラム停止後に画面を閉じます。

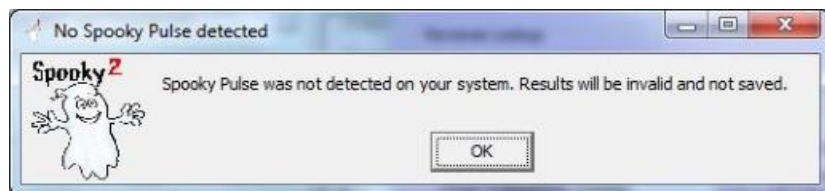
「～」の場合は、プログラム名や周波数リストは保持されていますが、「-」の場合はプログラム名も周波数リストもクリアされます。

Spooky Pulse (スプーキーパルス) は**Spooky**ソフトを起動する前にPC本体の**USB**ポートに接続します。

もし、**Spooky**ソフトを先に起動し、後から**Spooky Pulse**をPCに接続すると、下記のメッセージが出ます。

内容は、**Spooky Pulse**はシステムに検出されませんでした。結果は無効で保存されません。(Spooky Pulse was not detected on your system. Results will be invalid and not saved.)

OKボタンを押すと無効なサンプルスキャンが開始されます。それで、有効スキャンをするためにスキャンをストップして、**Spooky**ソフトを閉じて、それからソフトを再起動する必要があります。



グラフ領域をクリックするとスキャンが中断されます。
途中でスキャンを中断すると下のメッセージが現れます。

内容は、バイオフィードバックスキャンが終了するまで待ってください。
(Please wait for the Biofeedback scan to complete)

OKボタンを押すとメッセージを消せます。スキャンは継続されます。
プログラムを中断するときは、上記の赤丸で示してある**Stop**ボタンを押してください。



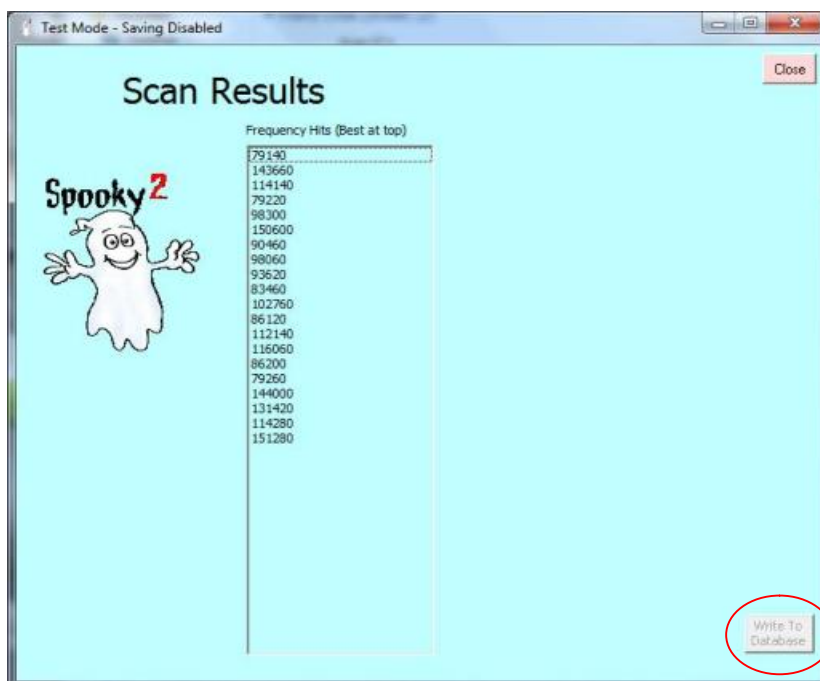
バイオスキャンが終了すると、その結果が以下のように表示されます。
Max Hit to Find (ヒット周波数の数) で設定した**20**個の周波数がヒット数が多い順にリストアップされます。

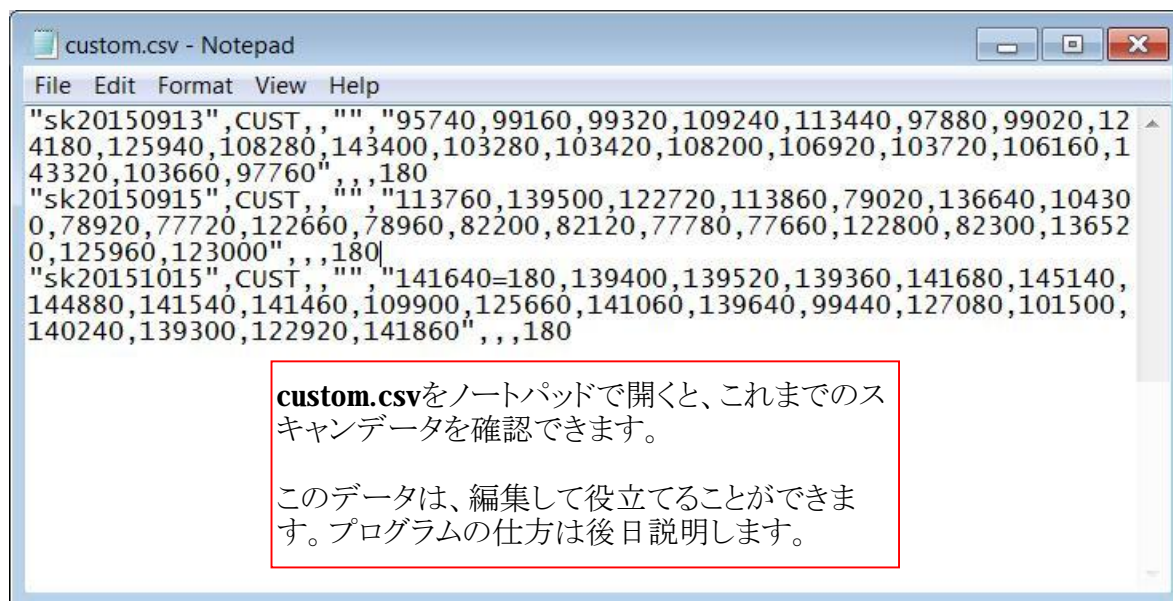
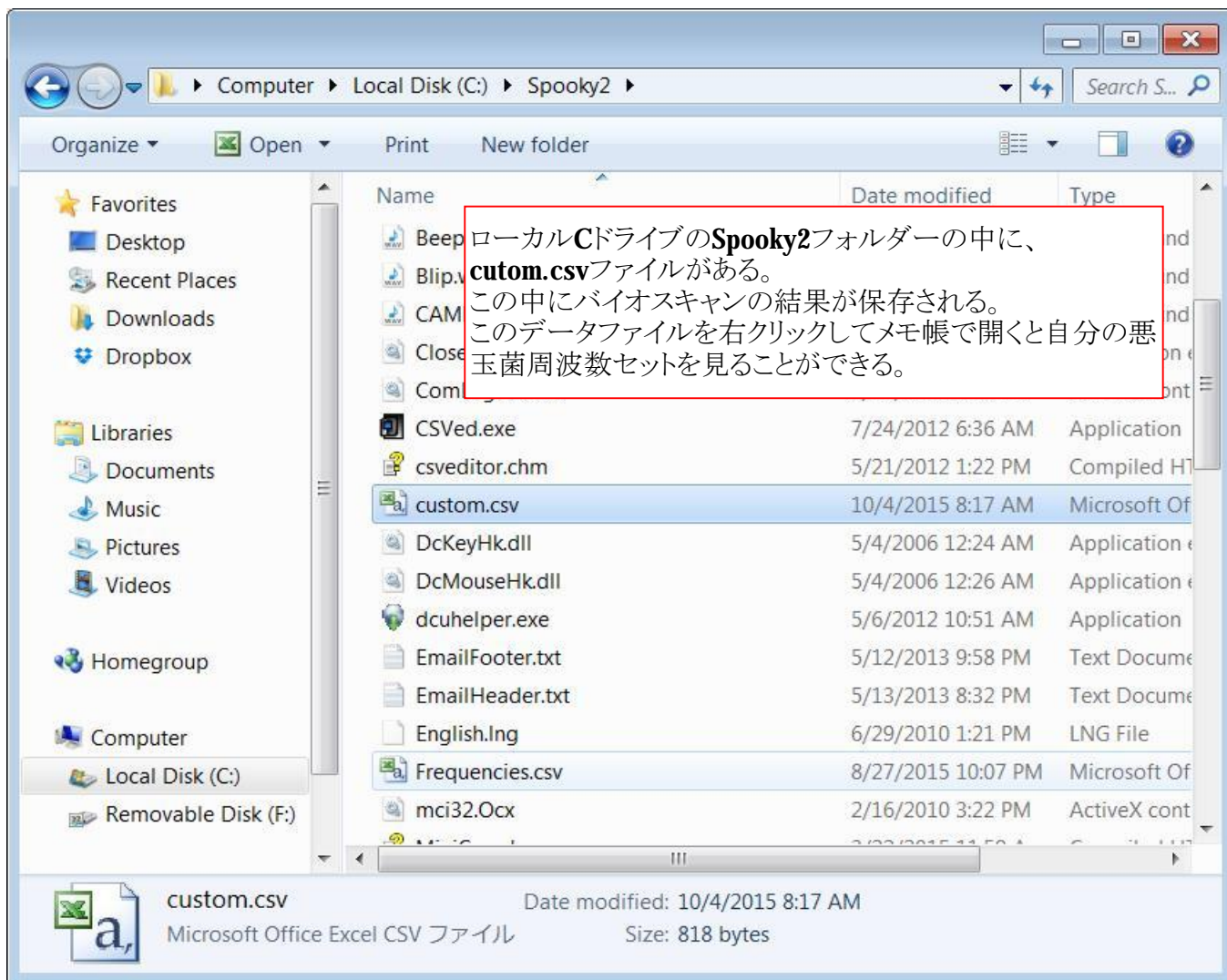
この周波数セットが自分特有の悪玉菌周波数リストとなります。これを名前をつけて**custom.csv**に保存します。

名前は、自分のイニシャルと日付を組み合わせて、**sk20151015**のようにいつのスキャンか分かるようにしておくといと思います。

下の図はテストモードのため、赤丸で示した保存のためのボタンの文字 **Save to Databas** (データベースへ保存する) が薄く表示されていて働きません。スキャン中にエラーが発生すると同じような結果が生じます。その場合は最初からスキャンをやり直す必要があります。

スキャンが成功した場合は、**Save to Databas** (データベースへ保存する) ボタンが機能します。





微生物のライフサイクルやプレオモフィズム(**pleomorphism**、多形変性)からすると、悪玉菌の形状や勢力分布が日々変化していることがわかります。ヒットする悪玉菌の周波数は日ごとに変化していますので、バイオスキャンは**1週間**おきに実行することが勧められています。

悪玉菌の周波数セットは、殺菌(**killling**)プログラムに組み込んで使います。

